

全校生徒の作品の中から、優れたものを紹介します。六月のお題は、「ウイルス」「家族を詠み込む」「白」です。

月間賞

父の手はさなぎのようにつつんでるうちの家族の大切な糸

三―三 石川 希羅

第二席

しらゆりはりんとせつない悲しみの白い雲から雨が降り出す

二―三 廣瀬 亜美

第三席

白球を打って守って投げたいよ自肅期間中たいくつな日々

心地よい風に流れる鼻歌はいつのまにか家族で合唱

当然に返してくれる「おかえり」を噛みしめる日々の幸せがある

顔おおい目と目で会話新鮮だ理解できるは楽しいことだけ

青空にひと筆引いた白い線飛行機雲が空を駆けゆく

白シャツがふわりふくらみ走り出す高校最後の夏が始まる

真っ白のノートを開き板書するはじめの字には時間をかける

三―二	松浦	力樹
三―三	濱田	優菜
三―一	大場	美優
一―二	千葉	夢翔
三―一	大場	美優
三―三	千葉	みずき
一―二	荒木	舞優

優良賞

皮肉にも日本トップの失態で若者の関心政治にあつまる

負けまいと手洗いうがい自肅してやっと見られた友の笑顔

白いシャツ白いマスクに青い空今年の流行多分白色

志村けん世間ざわつく死の報道殿を奪ったコロナウイルス

夜七時祖母が作った夕食で七人全員笑顔に満ちる

真っ白な新品のシャツに身を包み白いキャンバスに色を付けてく

三―三	鈴木	日和
三―三	濱田	優菜
三―三	横山	堇
二―一	伊藤	綺畝
一―一	氏家	夢叶
一―三	佐々木	陽菜

佳作

父と母たまにけんかをするけれどなんだかんだと仲良しこよし

夢を見る少女の背中を強く押し「頑張れ」につまったたくさんの思い

外出られぬ感染防止白マスククラスの人の顔分らない

おかえりの言葉一つで消えていく一日の疲れ明日も頑張る。

沈潜するコロナウイルスにおびえつつ外出自肅は気が減入るかな

上り坂マスクで息が苦しくて照らす太陽汗がしたたる

三―一	中川	太陽
三―三	菊地	茉帆
一―一	松田	真於
一―二	佐々木	唯
一―三	櫻田	翔世
一―三	安倍	くるみ

国語科からのアドバイス： 一年生、『岩高短歌』へようこそ！

二・三年生の歌は、さすがです！経験の積み重ねを感じました。

特に「月間賞」の石川さんの「さなぎのようにつつんでる」お父さん

の愛情の比喩(たとえ)が、すばらしいです。みなさんのさらなる

工夫に期待しています。(和)

